巻頭特集 本格的な鋳造体験工房が今年オープン

桑名の地場産業「くわな鋳物」で

古くから「鋳物の街」として知られる桑名。九華公園の本多忠勝公像や八間通りのマンホール蓋、住吉入江にかかる玉重橋の高欄支柱、春日神社の鳥居など、市内ではたくさんの鋳物を目にすることができます。

高温の溶湯（溶けた鉄）が入った取鍋（とりべ）を傾け、鋳型に注ぎ込む様子。絶妙なタイミングは、機械にはできない職人のなせる技です

本多忠勝公に奨励されて現代まで継承される産業

桑名市内で作られる地場産業の鋳物は、「くわな鋳物」と呼ばれます。その起源は、慶長6（1601）年、徳川四天王の1人に数えられた本多忠勝公が、伊勢国桑名藩十万石の初代藩主となった際、職人たちに鉄砲製造の命を出し、藩の奨励策のもとで、本格的な生産を始めたことだと言われます。

鋳物製品は、その成型性の良さや耐久性の高さを生かして、紀元前から現代に至るまで、世界中で人々の暮らしを支えてきました。古代は各種容器や装飾品、刀剣類。現代は自動車や航空機、家電、IT分野など幅広く使われています。

桑名市安永にある大洋産業も、半世紀以上にわたり、鋳物製品を作り続ける企業の一つです。上下水道で使われる止水栓や仕切弁の蓋のほか、マンホールの蓋などを製造し、全国へ出荷しています。

「中でも、家庭用の鋳物製水道メーターボックスは、桑名市内にある8割以上が大洋産業の製品なので、身近に感じていただけるとうれしいですね」と話すのは、鋳造部注湯課の藤井淳さんです。

高温の鉄を流して固め、加工 実はカッコいい「鋳造」の仕事

鋳物の製造工程は、①原材料の溶解、②砂処理・造型、③注湯、④ショットブラスト、⑤バリ取り、⑥機械加工、⑦電着塗装、⑧製品組立、⑨品質管理という多くの工程があります。

「かたちのないところから作る鋳造部と、製品の最終形となる加工・塗装を行うことで完成品にする工作部に分かれ、それぞれがプロ意識をもって仕事をしています」と藤井さん。

仕事のやりがいをたずねると、「自分が製造に携わった鉄蓋や水道資器材などの鋳物製品が、全国各地で人の役に立っていると思うと、作業にも気合が入ります。60kg以上の溶湯（溶けた鉄）を流し入れる鉄蓋などの大物は、職人としての腕の見せどころですね。現在はどんな形の製品でも担当できるようになりましたが、まだ入社して間もない頃、自分が砂型に流し込んだ湯がネジ筐に仕上がるのを見て、味わった達成感が、今も忘れられません」と続けます。現場では安全を第一に考え、仲間とコミュニケーションをとることを大切にしているそうです。

経営企画部に所属し、広報を担当する鈴木奈央さんは、鋳物の製造工程について、SNSなどで情報を発信しています。「作業中の写真を撮るために工場内を回ると、鉄を溶かしたり、1500℃という高温の溶湯を流し入れたり、バリ取りの火花が散っていたりと、鋳造部がすごい迫力で作業しています。工作部は、豊富な知識と技術で繊細な仕事をして、製品を完成品へと仕上げます。誰もができることではないけれど、職人であるスタッフたちは、平然と作業をこなしています。そんな鋳造のカッコよさを、多くの人に伝えていきたいですね」と話します。

大洋産業の本社敷地内に鋳造体験工房が開業予定

大洋産業では、2022年夏頃を目指して、「くわな鋳物」の鋳造体験工房『Caster Home』（鋳造師の家）を、本社敷地内である工場の隣に併設すると発表しました。現在は試作などが進んでいる段階だといい、藤井さんをリーダーとして、現場スタッフと広報の鈴木さんを含む30代前半の若いメンバー5人が、プロジェクトチームとして取り組んでいます。

計画発足の経緯は、影山彰久社長による、「大洋産業のブランディングの確立と共に、地域の人たちに、くわな鋳物を広く知ってもらい、ものづくりの楽しさを味わってほしい」という思いからだといいます。

「工場見学に来た方に、『鋳物がどんなものかを知っていますか』と尋ねると、小・中学生はもちろん、大人の方でも知らないという方が増えました。また、鋳物製造というと、厳しいイメージがありますが、魅力を感じていただき、従来のイメージを払拭していきたいという社長の思いも込められています」と鈴木さんは話します。そんな思いで、昨年の「桑名ほんぱく2021」に鋳造体験工房を出展し、好評を博しました。

新設する体験工房では、一般向けに次の3コースを予定しているといい、作業中は現役の社員が立ち会って指導します。「くわな鋳物」作りへの挑戦は、特別な体験になりそうです。桑名の歴史や文化に思いを馳せながら手作りした「くわな鋳物」は、プレゼントにしても喜ばれるはず。本格的な環境の中、ものづくりの楽しさが味わえる鋳造体験工房『Caster Home』のオープンが、今から待ち遠しく感じられます。

1_庭先などで目にする水道メータ筐。地中などの厳しい環境に長年対応する耐久性があります　2_2021年12月に行われた、「ほんぱく（桑名本物力博覧会）2021」の様子。2022年夏の鋳造体験工房開業に向けてプレイベントを行い、好評を博しました　3_「ほんぱく」では3Dプリンタの型をもちいて、錫（すず）のコースターなどを製作　4_若い世代を中心としたプロジェクトチームが桑名の鋳物業界を盛り上げます

鋳造体験工房『Caster Home』の体験コース

2022年夏にオープン予定!

・30分コース（1,500円前後予定）
木板で挟んだコルクシートの型に錫（すず）を流し込み、キーホルダーなどを作ります。短時間で達成感を味わうことができるので、小・中学生の社会見学などにも利用できます。

・2時間コース（3,000~4,000円予定）
砂を使用した鋳造で、鋳型に錫を流し込み、固めて、お猪口やコースター、箸置きなどを製作します。

・2日間コース（20,000円~）
※実施時の安全面が確認出来次第追加予定
大洋産業で実際に使用している鋳鉄を使用し、ミニマンホールを製作します。

※コース内容は変更する場合があります

文／倉畑桐子　写真／大洋産業株式会社提供　デザイン／ABBEY ROAD